

第5 宝塚での自然環境保全

1 現状

本市の南部市街地の周辺緑地や北部地域の里地里山など自然豊かな環境は、多様な生物が息する場を提供し、私たちはその恩恵を受けてきました。

しかし、現状は①開発行為などの人的要因、②農林業の人手不足による放置林や耕作放棄田の増加、③地球温暖化、④外来生物による種の混乱などにより、希少種の絶滅や多様な生態系の滅失が危惧されています。

宝塚市においても同様であり、一部からは「以前見られた植物が最近見られない」などの声もあり、衰退は進んでいるものと思われます。

2 丸山湿原

丸山湿原は、県内最大規模の湿原群で生物多様性に富んでおり、兵庫県版レッドデータブックや環境省レッドリストで指定されている貴重種は、植物19種、動物18種にもものぼっています。

しかし、近年の農村生活の変化により、燃料として薪などを利用しなくなり、湿原周辺の山林も里山として手が入れられず、自然遷移が進んでいます。また、湿原がハイキングルート上にあることや山野草愛好家に湿原の存在が知られていることから、植物の盗掘や踏み込みなどが見られるようになりました。

地元まちづくり協議会を始めとする地域住民組織との連携の成果として、地域住民と都市民の協働ボランティア組織「丸山湿原群保全の会」が発足するなど、保全活動の取り組みがなされてきました。

また、地元住民組織を中心として学識経験者や行政等で組織する「宝塚西谷地区湿原群研究協議会」を中心として、

『丸山湿原エコミュージアム構想』が平成19年3月に策定され、この構想の実現を図るため、平成20年8月には保全活動団体など地元組織を中心とする「丸山湿原エコミュージアム推進協議会」が設立されました。



● 保全活動

1) 自然環境調査

県により「丸山湿原群に関する自然環境調査（平成18年3月）」、「丸山湿原モニタリング調査（平成19年3月）」が実施され、植物、哺乳類、両生・爬虫類、水生小動物の調査が行われ、平成19年には前述の調査を補完することを目的として、「丸山湿原自然環境蝶類調査」を市において実施しました。



2) 保全活動

平成17年度には自然遷移が進んでいた湿原を中心に進入道を含めて里山林整備が県阪神北県民局を中心として実施されました。

丸山湿原群保全の会によって、盗掘や踏み込み防止のための柵の設置やパトロール、啓発看板の設置の他、湿原内における植生を観察し、復元状況を見るモニタリング調査が実施されてきました。

平成24年度は、湿原の植生管理や里山の整備、両生類のモニタリング調査などのセミナーを3回開催しました。

3 宝塚市生態系レッドデータブック2012

(1) 背景

平成24年3月に策定した、「生物多様性たからづか戦略」を効果的に推進するため、平成12年3月に策定した「宝塚市生態系レッドデータブック」を見直し、「宝塚市生態系レッドデータブック2012」を策定しました。

(2) 概要

- 1) 生態系は生物の群集とそれを取り巻く自然環境からなるもので、その規模等に応じて川、池などを単位とする小生態系（スポット）、集水域を単位とする中生態系（エリア）、中水域を包括する100ha単位の大生態系（ゾーン）を設定し、箇所を抽出しました。
- 2) 宝塚市の自然を考える上で保全することが望ましいと考えられる生態系を「重要な生態系」として、そのランク付けはスポットのみ行いました。
- 3) 評価にあたっては、植生、植物、動物、地形、風景の項目を設定し、指数化してランク付けしました。

エ 選定の結果は次のとおりです。

種 類	Aランク	Bランク	Cランク	Dランク	合計
①ため池	－	8件	44件	7件	59件
②社寺林	1件	9件	18件	－	28件
③河川	1件	6件	10件	－	17件
④孤立二次林	－	－	7件	5件	12件
⑤湿原	1件	1件	4件	2件	8件
⑥放棄水田	－	－	2件	－	2件
⑦岩角地	－	－	2件	－	2件
⑧六甲山地	－	1件	－	－	1件
計	3件	25件	87件	14件	129件

4 市民活動

(1) 方向

今後、市民・事業者・行政が行う全ての活動において生態系保全の視点を取り入れる必要があり、そのためには、生態系レッドデータブックの見直しを行い、現在の生息状況を把握するとともに、保全の方策を定め、市民や事業者に対する意識の醸成を図る仕組みづくりが求められています。

(2) 市民活動等の展開

本市が六甲山系や長尾山系、南部市街地の中央を武庫川が流れる自然豊かな環境にあったことから、市民レベルでも様々な活動が従来から積極的に行われてきました。

- ・ 動植物の観察会など自然保護活動を行う「宝塚市自然保護協会」
- ・ 逆瀬川の整備計画にかかわり、清掃活動を行う「逆瀬川の自然を守る会」
- ・ 桜の園、武庫山の森などの里山保全活動を行う「櫻守の会」
- ・ 松尾湿原の保全・再生や、ホタルの生育研究に取り組む「宝塚エコネット」
- ・ 丸山湿原の保全・再生活動を行う「丸山湿原群保全の会」
- ・ 野鳥の観察や小学校での探鳥指導、野鳥保護と生態観察を行う「宝塚野鳥の会」

5 生物多様性たからづか戦略

(1) 戦略策定のねらい

宝塚市は、六甲山地及び長尾山地、武庫川、ミヤマアカネが飛び交う逆瀬川、小仁川、西谷の里地里山や丸山湿原などの豊かで貴重な自然環境と、その自然環境に調和したゆとりと潤いのある住宅地や緑あふれる田園風景など、地域ごとに特色のある美しい都市景観が魅力です。近年これらの宝塚の魅力の基盤となる生物多様性は、緑地の減少や里山の荒廃などにより年々失われつつあるため、行政と市民等が協働し、生物多様性の保全を推進するために、平成24年3月に、「生物多様性たからづか戦略」を策定しました。

(2) 基本理念と目標

1) 基本理念

生物多様性を保全・育成・再生し、その恵みを次の世代へ引き継ぐまち「たからづか」

2) 目標

- ・ ふるさとの生物多様性を保全するまち
- ・ 自然の恵みを持続的に利用しているまち
- ・ 自然の恩恵を大事にするまち

3) 目標年次

長期的には、平成62年度（2050年度）を見通した目標期間としますが、具体的な行動計画の目標年次は、平成28年度（2016年度）とします。

(3) 取り組みと課題

1) 生物多様性を保全・再生する取り組み

宝塚市内では、生物多様性を保全、再生する活動に、さまざまな主体が取り組んでいます。

兵庫県による北摂里山博物館構想事業では、宝塚市内で丸山湿原や松尾湿原など9箇所が北摂里山フィールドマップに掲載されています。

武庫川水系および猪名川水系では、兵庫県及び国土交通省が河川の自然再生に取り組んでいます。

NPO、NGO、企業などにより、松尾湿原や丸山湿原の保全活動、亦楽山荘の里山維持管理活動など、市内に分布する絶滅危惧種の保全や再生を目的とした取り組みが行われています。

2) 課題

国・地方自治体の取り組みとの連携、宝塚市の生物多様性の把握、貴重な種及び生態系の保全などの課題があります。

(4) 行動計画

1) 行動方針

- ・ 郷土の生物多様性を保全、育成、再生する
- ・ 生物多様性の恩恵を持続的に利用する
- ・ 生物多様性を学び、守り育てる社会づくり

2) 重点的に実施する施策

- ・ まち山との関わりの強化
- ・ まちに緑を増やす
- ・ 宝塚市の生物多様性の把握
- ・ 外来生物への対策
- ・ 生物多様性についての情報発信
- ・ 拠点施設の設置と運用
- ・ 生物多様性に係る市民運動の支援

6 宝塚市レッドリスト・宝塚市ブラックリスト・生物多様性シンボル生物

(1) 背景

平成24年3月に策定した「生物多様性たからづか戦略」の総合的かつ計画的な推進を図るため、「宝塚市生態系レッドデータブック2012」に続き、「宝塚市レッドリスト」及び「宝塚市ブラックリスト」を策定し、「生物多様性シンボル生物」を選定しました。

(2) 宝塚市レッドリストの概要

対象は「植物」、「哺乳類」、「鳥類」、「両生・爬虫類」、「魚類」、「昆虫類及び無脊椎動物」、「植物群落」としました。レッドリストは、市内に分布する貴重な生物の存在を市民に公表し、これらの保護に必要な情報の蓄積をはかるためのものです。

植物及び動物については、宝塚市に分布記録のある生物から、国、近畿、兵庫県のレッドリストに記載されている種をリストアップした上で、学識者から得られた情報や、市の周辺地域での分布状況も考慮して「地域選定種」を抽出しました。抽出種は、植物255種、哺乳類18種、鳥類87種、両生類13種、爬虫類10種、魚類24種、昆虫類190種、無脊椎動物38種となりました。

植物群落については、市内で40箇所を候補としてリストアップしています。

(3) 宝塚市ブラックリストの概要

対象は「植物」、「哺乳類」、「鳥類」、「両生・爬虫類」、「魚類」、「昆虫類及び無脊椎動物」としました。ブラックリストは、市民に外来生物の脅威について注意喚起を促すとともに、駆除や管理に必要となる情報蓄積をはかるためのものです。

宝塚市に分布記録のある生物から、外来生物法、兵庫県ブラックリストに指定されている種をリストアップした上で、市の周辺地域での分布状況も考慮して抽出しました。植物については、宝塚市ではまだ分布記録はないが、定着した場合には生態系への影響が大きいと考えられる3種を追加抽出しています。抽出種は、植物76種、哺乳類6種、鳥類3種、両生類1種、爬虫類2種、魚類9種、昆虫類3種、無脊椎動物5種となりました。

(4) 生物多様性シンボル生物

市内の生物多様性を象徴する種から、生物多様性シンボル生物を選定しました。市民アンケートの結果を参考に、市内での動植物の分布状況、学識者の意見を反映し、選定の結果、ツメレンゲ（植物）およびミヤマアカネ（昆虫）が選定されました。

種名	分布状況	選定理由
ツメレンゲ	主に、武庫川の岩の露出した環境に生育する。	市民アンケートの結果、他の候補種と比べて、回答例が少なく、情報発信の必要性が高い。絶滅の危惧されるチョウ類の食草となるなど、生物多様性を学ぶ上での意義も高い。
ミヤマアカネ	仁川・逆瀬川を中心に分布するほか、西谷地区でも一部で生息が確認されている。	京阪神間では急速に減少しており、市内で本種が安定的に生息していることは、大きな特徴のひとつとなっている。本種を対象とした市民活動や研究がさかんで、市内を代表する種とすることは妥当と考えられる。